

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171600176		
法人名	有限会社 佑紀苑		
事業所名	グループホーム佑紀苑		
所在地	佐賀県杵島郡白石町福富3125番地2		
自己評価作成日	令和2年3月7日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	令和2年3月23日	外部評価確定日	令和2年4月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム佑紀苑は「地域の中のひとつの家として、安らぎと安心のある生活をご一緒しましょう」という理念を掲げています。家庭的な雰囲気の中で、入居者の方がご自身の時間を大切に過ごして頂けるように日々努めています。近所への買物やドライブ、園芸など出来る限り楽しんで頂いています。長年スタッフが殆ど変わらずに和やかな雰囲気で働けているところもアピールしたいです。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は優しい色彩の平屋造りの建物で、広々とした石庭には、門柱は門扉もなく開放的な造りである。玄関前も季節の花の寄せ植えの鉢やプランターが配置されてる。暖かい日は利用者がゆったりとくつろげる憩いの場となっている。日常の支援にあたっては、利用者の尊厳を尊重し、「安らぎと笑いのある楽しい生活」の実現を目指している。職員の笑顔のある優しい言葉かけや支援は、利用者にも、安心感をもたらしている。職員の異動も少なく、家族や利用者の信頼関係は厚い。医療面に関しては主治医の週1回の定期的な往診だけでなく、24時間いつでも相談できる関係にあり、家族は安心している。

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域の中のひとつの家として、やすらぎと安心の楽しい生活を私たちと一緒しましょう」の理念を掲げ、入居者様との日々を大切にしている。	理念は目に付く場所に掲示され、意識付けを図っている。管理者は理念の具体的な姿を折に触れ、穏やかに一人ひとりに向き合ったケアを心掛けるよう指導している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区のクリーンデーや神社の行事などの地域のイベントには、一員として参加しながら交流している。	自治会に加入しており、職員は清掃作業にも参加している。神社の春と夏の祭りには、運営推進会議から情報を得、参加につながっている。また地元中学校から毎年ボランティアを受け入れ、利用者とともに貼り絵など作品づくりを行い交流を深めている。地域の人からは、特産の玉ねぎや蓮根の差し入れを受けることも多い。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学校のボランティア行事、文化祭での報告会、子供浮立などは毎年参加させながら、地域の方々に認知症についての理解をして頂けるよう努めている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度の運営推進会議では、区長、役場、民生委員、ご家族に参加して頂いている。事業所の活動報告や、研修報告、地域での困り事やご家族からのご意見等の情報交換を行いながら、サービスに活かしている。	運営推進会議に関しては、家族全員にも開催を知らせている。事業所報告や利用者の状態等の報告が行われ、参加者から意見や質問を受け運営に反映している。議事録もきちんと作成されている。		

自己	外部	項 目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	白石町役場長寿社会課(地域包括センター)の方に2ヶ月に一度は運営推進会議に参加して頂き、事業所での取り組みを知って頂いている。相談事や問い合わせなども度々あり、協力関係を築けている。	町の職員とは 運営推進会議メンバーでもあり、普段から顔馴染みであり、相談事は直接会って話す事が多く、対応してもらっている。また行政との連携で毎月行われている町内のグループホーム交流会も積極的に参加し情報の交換の場となっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は事業所内や外部の研修に定期的に参加し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。日中は玄関は解放しており、夜間の居室には足元に人感センサーを置き、入居者の方がトイレに起きられる時などの必要時にはすぐに対応出来るよう努めている。	職員は身体拘束の内容とその弊害も理解している。事業所での勉強会や外部での研修会に参加し、受講した内容は勉強会等で伝達講習を行い、職員全員に周知している。玄関に施錠はなく、職員の目配り等で安全な暮らしが支援されている。外へ出る利用者がいても一緒に歩き、行動を抑えることはない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃から言葉遣いに気を付け、スタッフ間でもお互いに声をかけながら業務にあたっている。高齢者虐待についての研修などに参加し、意識を高めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用されていた方がおられ、制度について学ぶきっかけになった。必要時は担当の方と連絡を取り合い、入居者の方の支援に繋がるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居・退去時の際は入居者の方やご家族の方に十分な説明をし、理解・納得して頂けるようにしている。気になる点があれば、いつでも気兼ねなく電話や面会時に相談して頂けるような雰囲気づくりに配慮している。		

自己	外部	項 目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の面会時や定期受診日などで、ご家族から上がった意見を、運営推進会議などで報告し、再度職員間で情報共有している。入居者の方からは毎日の食事や行きたい場所などの意見があり、日々の業務やケアに反映されるよう職員間で話しあいながら実施できるようにしている。	職員は直接話が出来る機会を大切にしており、毎月の利用料は事業所に届けてもらうことにしている。面会時には利用者の実情等を伝え、要望や意見等を聴くようにしている。そこで出た意見は真摯に受け止め、運営に反映させるよう努めている。外部の相談窓口は書類に明記されており、説明も行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の申し送り時や、毎月のケア会議などで上がった意見を管理者はまとめて代表に文書で報告している。申し送りノートを活用し、職員が気軽に書き込んだり、休み明けであっても閲覧することで情報共有できるようにしている。職員から上がった意見や計画については代表からその都度口頭やメールなどで応じてもらっており、スムーズに業務に反映する事が出来ている。	職員会議は月に一度カンファレンスや行事等の打ち合わせが主な内容で、休みの人も出席しているが強制ではない。日頃会議で取り上げてほしい事は、申し送りノート等を活用しているため、そこから拾う事もある。管理者は職員の意見や提案等は調整を図りながら、必要に応じて代表者に伝え運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務日、希望休などは職員ひとり一人の希望に添えるように努めている。希望休が重なった場合は勤務可能な時間帯を調整し、個人の余暇の時間も尊重している。勤続年数、勤務状況に応じて昇給もあり、様々な理由から自己退職・休職になっても復帰できる職場となっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は年に数回、様々な研修に参加させて頂いている。町内の5つのグループホームでの合同での研修などにも参加し、介護についての知識や理解を深めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内の5つのグループホームとの地域連携協議会が3ヶ月に一度開催されている。その中で、情報交換や勉強会、各事業所の見学会や交流会を行いながらケアの質の向上を図っている。		

自己	外部	項 目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人が話しやすい雰囲気づくりを心がけている。特にサービス利用開始時は不安も多い中で、日々一緒に活動をしなが職員にも慣れて頂けるようにしている。1対1での入浴の時間などに不安や要望を言われる時もあり、少しでも安心されるように傾聴している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の面会時や電話などで、気になる点や定期受診の際に主治医から言われた事などの情報交換を行っている。ご本人やご家族の要望に添えるように職員間で話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要とされている支援が何か、ご本人、ご家族、ケアマネジャーや看護師と話しあう時間を設けている。必要時に応じてソーシャルワーカーや他の施設のケアマネジャーとの情報交換を行い、連携を図っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフが教わる機会も多く、お裁縫や園芸、暮らしの知恵など勉強になる事が多い。入居者の方にご自分の役割を持ってもらいながら楽しく暮らして頂けるように努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時には、居室でゆっくりと家族の時間が過ごせるように配慮している。他県におられるご家族へはご本人の近況報告を電話で行ったり、手書きの年賀状と一緒に作成したりし、離れていても安心して頂けるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の行きつけの美容室や、ご近所の幼馴染や御親戚の方との関係が継続出来るように支援している。いつでも面会に来て頂けるように声をかけており、地元の老人会や学生からのプレゼントを持参されたり、自宅で暮らしている時のように馴染みの方との繋がりを大切にしている。	利用者の高齢化で馴染みの人の訪問少ないが、知人の訪問時は自室でゆっくりくつろいでいただけるよう湯茶の接待も行っている。通院やドライブの折には、自宅付近へ回り、自宅や周辺を眺めてもらっている。また、家族の協力を得て、盆正月の帰宅や墓参り、法事への出席なども実現している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の方同士がお互いに声をかけ合い、得意分野を活かして協力して下さっている。あまり話されない方は孤立されない様に、職員が間に入って会話の輪の中に入れて頂いている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、長年入居されていた方は担当の方から転院の連絡があったり、面会をしたりこれまでの関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の要望を大切にしたプラン作りに努めている。日々関わっていく中で、ご本人の思いや、やりたい事、暮らしの中での不安などを聞き出せるように努めている。入浴中などのリラックスした時間や昼食後のゆったりした時に1対1での会話をしたり、工夫している。	日々の関わりの中で利用者の心に寄り添い本人の思いや意向の把握に努めている。利用者との会話を交わし、日常生活の中でちょっとしたつぶやきや行動、表情の変化などから思いをつかむようにしている。そこから得られる小さな情報は、全職員で共有し、意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される前にアセスメントを充分に取り、今後のケアに活かせるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各個人の心身状態や、ADLなどを把握し、申し送りノートなども活用しながら職員間で共有出来るようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族には面会時や電話などで要望をお聞きしたり、会議時などで話しあい、職員の意見も出し合いながら、介護計画を作成している。	ケアプランの設定期間は、利用者の状況により6ヵ月毎に設定されている。その間に変化があれば臨機応変な見直しも行っている。毎月末にモニタリングを行い、設定期間毎に評価も行っている。本人の希望は日頃のケアの中で把握し、家族の要望等は来所時や電話での会話から汲み取るようにしている。家族のサービス担当者会議への同席は少ないが、来所時に説明をし、意見を聞いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録に日々の様子や、気づきなどを記入し、申し送りノートで職員間での情報共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様に直接話しをしたい方には、電話をかけて要望を伝えて頂いたり、通院時に不穩になられる方に対しては、往診を依頼したり柔軟に対応できるように工夫している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々の協力にて災害時の訓練の協力をして頂いている。外へ頻繁に買物へ行かれる方については、交番の巡査さんに氏名と顔写真を渡し、把握して頂き安全に暮らして頂くよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望に沿ったかかりつけ医となっている。自宅の隣に昔からのかかりつけ医がある方は、馴染みの関係を継続して頂き、受診時は顔なじみの方と再会する日もあり、喜ばれている。	利用者や家族が希望する医療機関で主治医と連携して健康管理が出来るように支援している。受診は基本的に家族送迎となっており、日常のバイタル等を持参してもらい 正確に医師に伝わるよう配慮している。また、職員が付き添う場合の結果報告は行っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は日々の健康管理を行い、心配事は看護師やご家族へ相談している。急変時には適切な受診、治療を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはご家族や病院関係者との情報交換を密に行っている。可能な限り面会に伺ったり、早期の退院が出来るよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の契約時に、入居者の方が重度化した場合の対応に関わる指針の説明をし、同意を得ている。	重度化や終末期対応の指針があり、契約時に説明し同意を得ている。事業所でできること、できないことを説明し、家族の意向を確認している。これまでに看取りの実績はないが、医療機関とも連携した対応への用意はできしており、本人や家族が安心して納得した最期が迎えられるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変に備え、研修などに参加し、知識を職員間で共有している。応急、緊急時のマニュアルに沿って速やかに対応できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練を行っている。地元の消防団や消防機器業者にも立ち会いをお願いしている。近隣住民、区長、民生委員と共に、消火器の使い方などについて学んでいる。	年2回消防機器業者の立会いで、夜間想定を含め、職員・入居者で避難訓練を実施している。地域の民生委員や近隣への声掛け挨拶を行っている。全ての職員が消火器や火災通報装置の使い方も熟知し、非常食や水の備蓄また衛生品の備蓄も整っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	目線を合わせて丁寧な言葉かけを行うようにしている。トイレや入浴時のドアの開閉や、居室のカギの利用など、共同生活の中でのプライバシーの確保が守られるように配慮している。	職員は利用者本人の人格を尊重し、敬意を払った対応を心がけ、業務上の会話にも注意を払っている。また個人情報の取扱いに対する職員の意識は高く、ホーム便り等への写真や名前の掲載など入居時には承諾を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々、言葉かけをしながらしたい事や食べたい物など、要望などを話しやすい雰囲気づくりを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限りの希望に沿えるように支援している。自宅への帰宅など、職員だけでは難しい場合は、ご家族と一緒に考えながら希望に沿えるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容室へ行かれたり、使い慣れたメーカーの化粧水などを使われている。少なくとも職員が購入に行く場合もある。好みの髪の毛の分け目や服の色なども、ご本人様に教わりながらおしゃれの支援をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いを把握し、楽しい食事になるように声かけをしながら一緒に食事を摂っている。食材の宅配サービスも利用しているが、買物に同行出来る方は一緒に野菜やおやつを選んで頂き、当日同行されない方の食べたい物も一緒に購入するようにしている。豆の皮むきなどの簡単な下ごしらえは皆さんと一緒に行う時もある。	事業所では食材の宅配サービスを利用しているが、利用者の希望に沿った献立に変更し調理されている。利用者は足りない分の買物に同行したり、準備を手伝う利用者もいる。職員は利用者の隣に座り、声掛けや介助を行いながら一緒に食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月体重測定をしており、増減も考慮に入れながら栄養バランスのとれた食事を提供している。水分摂取についても便秘にならない様に気をつけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後も口腔ケアを行い、異変があればご家族や歯科医に相談している。週に3回入れ歯洗浄を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェックシートを活用し、定期的に声かけ・誘導が必要な方の介助や、排便の把握に努めている。リハビリパンツから布パンツへ戻られた方もおられたり、通院時は必要に応じてオムツを使用するなどの支援を行っている。	利用者一人ひとりに合わせた排泄の自立を積極的に心がけ、声掛けや時間ごとの誘導支援を行っている。尿パットや紙パンツを本人に合わせて利用しているが、布製のパンツに移行された利用者もいて、自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならない様に野菜多めの食事を提供している。ヨーグルトやヤクルトなども10時・15時のおやつで提供し、排便のチェックをしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の順番にも気を配り、1番がいい方、最後が良い方、熱めのお湯が好きな方など出来る限り要望に応じている。その日の体調に応じて無理のないように支援を行っている。	入浴は週3回を基本としているが、利用者の要望や体調等に合わせていつでも入浴できるよう支援している。入浴を嫌がられる利用者には、無理強いせず、日にちの変更や時間をずらしたり、言葉かけなど工夫しながら支援している。清拭や足浴などで対応することもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの習慣に応じて、寝具を調節したり、室温を調整し、安眠出来るように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	名前、日付の確認を行いながら服薬の支援を行っている。症状に変化があれば、看護師やご家族に報告しながら定期受診に繋げている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な事を発揮して頂く機会とし、役割を持って頂いている。洗濯物干し、お盆ふき、園芸など楽しまれている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に応じてお花見や神社へのお参り、土用の丑の日に皆さんでうなぎを食べに行くなど、普段は行けない場所でも行けるように、計画を立てて実行している。これから過ごしやすい季節になっていくので、体調に応じてなるべく外出の時間を設けたい。	利用者の体調に合わせながら、外出の機会を作るようにしている。職員と一緒に食材の買物に出かけたりすることある。年間行事でも季節に合わせてドライブ予定されているが、天候や体調をみて当日に決まり出掛ける事もある。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理出来る方は所持されており、日々の買物を楽しまれている。お出掛けなどの際にはなるべく自分で支払いをされるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や地元の中学生からの年賀状や手紙のやりとりの支援をしている。近所の方から定期的に電話がある方は、しっかり聞こえるように音量に注意している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングのソファは、どなたでも座れるように2か所設置している。季節の花を置いたりし、入居者の方向士が寛げるように配慮している。日差しが強い日にはブラインドを調節したり、部屋の換気などにも気をつけ、気分よく過ごして頂けるように努めている。	広くて明るいホールは、寛ぎの空間としてソファやテーブルが設置され、壁には利用者が作成した貼り絵や中学生がボランティアで作成された作品など掲示されている。感染症予防で時には戸を開け換気をし、利用者が手を触れる箇所の消毒もこまめに行っている。浴室やトイレはきれいに掃除され不快な臭気はない。国道沿いではあるが騒音はあまり気にならず静かな環境である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食席の配置は、なるべく気の合う方と隣同士になれるように配慮したり、ひとりで過ごすのが好きな方はソファの背もたれにクッションを置いて寛いで頂けるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、自宅で使用されていた馴染みのある家具や布団などを持ち込まれており、居心地良く過ごして頂けるようにしている。ご家族や友人との写真を飾ったり、安心できる様に工夫している。	馴染んだ品物や使い慣れた品物の制限はしていない。部屋には馴染みの布団が持ち込まれ、また使い慣れたタンスの上には思い出の品物や、写真などが飾られている。利用者が居心地よく過ごせるよう配慮している。掃除は毎朝職員が行うが、出来る事を手伝う利用者もある。窓を開け換気もしている。また家族の希望があれば宿泊も可能である。	

自己	外部	項 目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要以上に手を貸して、自立を妨げる事の無い様に、できる事はして頂きながら自立した生活が出来るように支援している。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない